

---

# 女の時間

うぐいふみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

女の時間

### 【著者名】

N4736D

### 【作者名】

うぐいふみ

### 【あらすじ】

毎日家を守り、夫を笑顔で送り出す妻。そんな彼女の一日を追つ  
てみると……。男達が知らない女の時間の一コマ。

東のカーテンを開けると寝室はオープンになつた。  
まだ早朝なので気温はさほどでもないが、真夏の直射日光は浴び  
ればそこだけ焼かれる様に熱い。

「あなた、もうそろそろ起きないと」

夫は寝惚け眼でベッドから半身を起こし、あくびをしながら寝癖  
の頭を搔いた。

「ああ、何か今日はよく寝たな……」

いつもならこの時間になれば大抵一人で起きてくるのだが、今朝  
は寝過ごしてしまつたらしい。

「そういうや、昨夜は鳴いてなかつたな。隣の犬」

隣の犬は救急車や消防車のサイレンが鳴るたびに遠吠えをする。  
「昨日は通らなかつたんでしょう。そういう日もあるわよ」

「平和で結構。いつもそだとこっちも助かるんだがな」

夫はベッドから降りると寝間着を脱ぎながら洗面に向かつた。

夫が車で出勤するのを細やかな我が家の門の前まで出て見送り、  
足下に目を落として彼女はほつとした。

今日は糞がない。

こここのところ毎日犬の糞がしてあつて困つていたのだ。

犯人はわかつていた。隣の和田さんだ。ゴミを捨てに早めに起き  
たとき、犬を連れたジャージ姿の和田さんが門の脇でしばらく立つ  
ていたのを目撃したことがある。苦情を言いにいこうかと思つたが  
やめておいた。つい数カ月前にこの土地に家を買って住み着いた新  
参者の身としては、御近所付き合いに波風を立てたくなかつたのだ。  
しかし、今日は糞がない。

それだけで何だかうれしくなつた。

ここ最近ないくらいの清々しい気分で彼女は家の中に戻つた。

午後に和田さんの奥さんが訪ねてきて犬を見かけないかと言つた。

「さあ。知らないけど。どうかしました?」

「それが昨日から見当たらないのよ。どこ行つちやつたのかしら」

「でも、繋いりますよね。いつも」

「それがリードが切れてて……。悪戯かしらねえ」

「最近物騒な事件も多いですしねえ。もし近所で見かけたら知らせます。何て名前でしたっけ」

「ペスよ。まあ、呼んだぐらいいじゃ反応しないと思うけど。ウチのはバカ犬だから」

和田さんは笑うと玄関のドアを開けて軽く頭を下げる。

「じゃあ、すいませんけど。もし見かけたらよろしくね」

すっかり忘れていた。

和田さんの足音が遠く消えていくのを確かめて、勝手口から裏庭に出る。

物置を開けると、むつと異臭がした。

真夏にまる一日、蒸し風呂のような換気のまつたくないところに置いておいたのだから無理もない。早く始末しなければならなかつた。そんなに大型犬でもないから自転車で十分だ。段ボール箱に詰めて近くの雑木林に埋めておけばいいだろう。ちょっと遠出をして川に捨てるという手もある。それとも庭の隅の方が手間がかからなくていいだろうか。

あれこれ考えた末、もう夕飯の支度までそんなに時間もなかつたので庭の隅に決めた。物置とは反対側にある、引っ越し記念に植えた桜の樹の下だ。取りあえず明るいうちに穴だけは掘つておき、夜夫が長風呂に入っている間を見計らつて根本近くに埋めた。

明かりのない場所での作業は思いの外大変だったが気分は晴れや

かだった。

これで糞害にも夜中の気分が滅入るような鳴き声にも悩まされなくて済む。夫も枕を高くして眠れるだろう。そうでなくとも工場での作業は単調で眠気を誘つ。うつかりミスで指や手を失った同僚もなくはない。夫にとつて睡眠不足は大敵なのだ。

一介の作業員の夫に出世は望まないが、毎日ケガなく余計な心労もなく健康で過ごしてほしい。

そのためなら万難を排することなど彼女にとつては何でもなかつた。むしろそれが妻の務めだと思っている。

作業を済ませると彼女は勝手口からダイニングキッチンに戻つた。

### 翌年の春。

庭の桜は見事に満開となり、彼女は夫と自宅で夜桜見物を愉しんだ。

隣の和田さんは相変わらずつつがなく過ごしている。

和田さんはいなくなつたペスの代わりに新しい犬を飼つたが、それもあり長くは居着かなかつた。その次の犬も。その次も。

最近は犬を飼うことは諦めたようだ。無趣味らしい和田さんの奥さんは、最近気分が優れず無聊を託つてゐるらしい。

そうだ。

明日にでも我が家の中見物に招待しよう。

御近所同士は仲良くしておくに越したことはないのだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4736d/>

---

女の時間

2010年11月13日19時21分発行